

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第3回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成29年3月30日(木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時から午後3時30分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 斉藤主査
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	教育長 佐々木健 文化財課長 三上敏彦 同課埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 東海林心 同課主事 工藤麻衣 建設政策課 赤石総括主査・佐藤技師 公園緑地課 今野主事・蔦川主事 (株)空間文化開発機構 杉本研究員
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備基本設計について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 ( 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 )	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備基本設計について

工藤委員長 : 前回委員会の段階では、竪穴建物跡周囲にC字状の園路を整備する案となっていたが、委員会での議論により不要ではないか、との結論となった。今回の平面形はどのような理由によるものか。

事務局 : 今回の設計案では、前回委員会の議論を踏まえ、主動線がタッチする北東側に広場的な園路空間を設ける形とし、同時に、管理用車両がUターンできる広さを確保した設計となっている。

工藤委員長 : 前回委員会での議論により、竪穴建物跡の遺構表示範囲周囲の立ち上がりは土羽とするものとしたが、現状の窪地の法面にうまく擦りつくのか。

事務局 : 基本的には擦りつくものと考えているが、現況の窪地は竪穴建物跡の本来的な平面範囲より狭い可能性があり、その場合は崩落土の範囲内で多少切土し、傾斜面を整える必要は生じるかもしれない。

工藤委員長 : なるべく急傾斜に仕上げたいところだが、土羽なので現状程度となるということか。また、表示内部の排水はどうするのか。

事務局 : 竪穴建物跡内部は透水性の舗装とし、浸透させる形となる。現状でも滞水することはないため、自然浸透で問題ないものと判断している。なお、断面図にある通り、保護盛土を実施したうえで舗装を行うため、窪地の高低差が少ない北東側は実質的には外部とほぼフラットとなり、表層排水が確保できる可能性もある。

岡田副委員長 : ベンチを置く計画はないのか。

事務局 : 整備計画策定段階での議論で、台地上にはあまり工作物を置かない方向性だったと記憶している。

岡田副委員長 : 大森勝山遺跡は眺望が優れている遺跡であり、おそらく来訪者から早々に要望が出ると思う。絶対置かなければならないものでもないが、要望への対応は考えておいた方が良い。

事務局 : 現在、公開活用イベント時には、地元町会の協力で丸太を置いて仮設ベンチとしている。しかし、いずれ腐朽するものであり、もし設置が必要となるならば、今回の整備でしっかりとしたものを整備したい。

岡田副委員長：高齢者への配慮はあった方がよい。

事務局：了解した。園路等の施設整備に係る詳細設計時に、具体の形状・位置・数量等を検討したうえで委員会にお諮りしたい。なお、基本的には岩木山への眺望を考慮し、台地北東側の実生木や、台地中央北縁の一本松の樹下に配置するような形となると思われる。また、整備計画策定時でも検討した通り、四阿については設置しない方向としたい。

岡田副委員長：基本的には、景観を大切にするという方向性で説明した方がよい。

関根委員：土器埋設遺構について説明板小を併設するとのことだが、写真等も表示するには少し小さいのではないか。

事務局：テキストに写真・図版を1～2カット程度を想定している。内部のレイアウトにもよると思うので、詳細設計時に再度お諮りしたい。基本的には、台座を石製とし、見下ろす形状で整備するという方向性で進めたいと考えている。

工藤委員長：土器埋設遺構については円環を真鍮で表示するとのことだが、金属での表示はやや違和感がある。

事務局：事務局内でも議論があり、陶器による表示なども候補となったが、耐久性に難があるとの結論となった。いずれ本来的には埋設されていたものであり、どのような表示でも「本来の姿」を示す訳ではないため、委員より類例を含めて、ご意見を賜ればと思う。

岡田副委員長：いろいろなやり方がある。踏まれて壊れることや、つまずかれるのを防ぐ意味でも、本案はベターな気がする。

事務局：機能などの説明は、「可能性がある」との表現に留まる形となる。しかし、数少ない遺構でもあり、事務局としてはなるべく整備していきたい。

工藤委員長：類例から幼児の墓の可能性はある、との説明になると思う。説明板のみとすることもできるのではないか。

事務局：説明板のみだと、結局位置まで説明する必要が生じ、わかりづらくなる。位置表示を行い、その横の説明板で半裁状況等の写真を添えて、説明を図ることを想定したい。

工藤委員長：来訪者の見学ポイントを増やしたい、ということか。

- 事務局 : 本遺跡における主要遺構は、あくまでも環状列石と竪穴建物跡ではあると思うが、事務局としては表示可能な遺構については、整備していきたい。
- 工藤委員長 : 土器埋設遺構の詳細については、今後もう少し詰める必要がある。便益施設でソーラー発電は検討したのか。
- 事務局 : 電気は施設整備地直近の架線から引き込むことを検討している。なお、堀越城跡整備において、ソーラー発電を検討する機会があったが、発電量がわずかであり、施設の整備コストがかなり高価となることが分かっている。
- 工藤委員長 : 整備計画では南東側への展望スペースの整備が示されているが、デッキなどを整備するのか。
- 事務局 : 園路整備後、刈り払い等により展望スペースを確保する方向で検討している。
- 工藤委員長 : 史跡名の標柱の整備位置は。
- 事務局 : 史跡外となる史跡出入口横での整備を予定している。
- 工藤委員長 : 史跡境界杭は整備するのか。
- 事務局 : 史跡境界自体は座標により確定済みであり、現状でもプラスチック杭は打設されている。現段階では予算化していないが、整備するとすれば最終年度となる。ただし、再測量の上打設する必要があり、コストはかなりかかると思われる。
- 岡田副委員長 : ガイダンス施設の整備は、予定では少し後となるが、未整備の間中は便益施設がある意味、窓口となる。他遺跡のポスター掲示等の情報提供を図るスペースや仕様を検討した方が良い。また、自動販売機は置かないのか。
- 事務局 : 自動販売機の設置に関しては、そもそも利益が多少なりとも見込まれたうえで、業者に置いてもらえるか、ということもある。情報掲示の在り方も含めて、四阿スペースの拡充等も検討したい。
- 岡田副委員長 : 緊急時の台地地区見学者への連絡方法等はどうか考えているか。可能性は低いと思うが、岩木山の噴火の可能性もないとは言えない。
- 事務局 : 大雨等の警戒発令時にはそもそも遺跡を閉鎖する等、ソフトでの対応を基本としたい。

岡田副委員長：ソフト対応ならそれでもかまわないが、いずれ何等かの形で明文化しておいた方がよい。

工藤委員長：仮設道路を建設するとのことだが、埋蔵文化財の立ち合い等を行うのか。

事務局：あくまでも盛土による仮設道路であり、基本的には立ち合いや試掘などの対応は不要と考えている。

工藤委員長：手すりに予定されている擬木はかなり太く、目立つ気がする。

事務局：耐久性を考慮して、現段階では擬木での整備を基本とした。ただし、事務局内でも議論があり、あえて現代的な金属製とし、景観上の圧迫感を減らすなどの方法も候補となっていた。どちらでも、コスト上ではそれほど大きな差はないと思われることから、今後さらに比較検討したい。

## 議題（２）その他

事務局より、来年度の事業と予算等について報告。

岡田副委員長：実施設計については、年度途中でも補助金を増額し、実施していった方がよい。数百万円でも実施していければ次につながる。

事務局：可能な限り検討したい。なお、昨年度委員会において、関根委員から提案のあった環状列石における温度計測については、現在来年度予算での実施を検討している。実施に当たっては、改めて弘前大学とも協議、連携して実施したい。